10月 31日 九特C 6版 P10310060L2W0Q06 HSEKMK01-AP 2026年10月27日20時14分13秒 更新出力
発行所＝ 西報知
面名＝ 報知西部九特C
記事校了時刻＝
カラー校了時刻＝
取り直し＝ 0
追い掛け＝ 0

藤原準優勝 渡部4位

絶対王者・鈴木の牙城崩せず… 桃萌「いつかは勝つ」

女子のベスト4には、昨年大会の上位3選手（鈴木未紘、藤原桃萌、目代結菜）と福岡支部の渡部はるあが進出した。

昨年準優勝の藤原は「今年こそ悲願達成を」の思いで稽古を積んできた。1回戦の澤井ナノ（東京城南川崎）は軽量級の実力者で無差別級でも力を発揮する女子空手界四強の1人。藤原とは何度も死闘を繰り返してきた。目代の突きからのインローへの蹴りに、藤原は左右の突きと下段蹴りで応戦。藤原の執念が勝り、決勝進出と共に、世界大会への切符を手にした。

試合巧者。素早い突きの連打を見せたが、藤原も応戦し貫禄勝ち。準決勝の目代結菜（東京城南川崎）は、女子空手界四強の1人。藤原とは何度も死闘を繰り返してきた。目代の突きからのインローへの蹴りに、藤原は左右の突きと下段蹴りで応戦。藤原の執念が勝り、決勝進出と共に、世界大会への切符を手にした。

決勝は、7度目の対戦となる鈴木未紘（厚木・赤羽）。試合開始の合図と共に、激しい打ち合いを展開。両者譲らない熱戦となったが今回も絶対王者の牙城を崩すことは出来なかった。藤原は「今回も残念でしたが、いつかは勝ちます。そういう強い気持ちを持って稽古に励んでいきます」と話した。

軽中量級王者のはるあ「戦える」

第10回JFKO全日本大会女子軽中量級覇者の渡部はるあが無差別級でも躍動した。体格差をスピードと体幹の強さでカバーし、1回戦と2回戦を突破。3回戦は、今大会で初シードに選ばれた細谷誉（埼玉大宮西）と対戦した。接近戦での激しい攻防は、鋭い突きの連打をたたき込んだ渡部に軍配が上がった。準決勝は、重量級の鈴木未紘と初対戦となった。挑戦者の渡部は、コート中央で果敢に攻め、激しく打ち合った。絶対王者相手に善戦したが、鈴木に旗3本が上がり敗れた。渡部は「体が小さくても戦えることが分かりました。ベスト4に入ったことは自信につながります」とさわやかに話した。

▼▼ 準優勝で世界大会出場を決めた藤原





▲▲ ベスト4に進出した渡部

◆藤原桃萌
▼1回戦 ○5―0高橋苺愛（桜塾）
▼2回戦 ○5―0酒井希羽（日本実戦空手道 七州会）
▼3回戦 ○2―0、5―0澤井ナノ（東京城南川崎支部）
▼準決勝 ○4―0目代結菜（東京城南川崎支部）
▼決勝 ●0―3鈴木未紘（厚木・赤羽支部）

◆渡部はるあ
▼1回戦 ○5―0渡邉ゆみ（愛信會アイライツ）
▼2回戦 ○0―2、5―0井上ほの花（東京城南川崎支部）
▼3回戦 ○2―0、3―0細谷誉（埼玉大宮西支部）
▼準決勝 ●0―3鈴木未紘（厚木・赤羽支部）

4強

世界への切符つかんだ 堀之内



世界大会への出場権を手にした堀之内

序盤戦は圧勝！

頂点のみを目指して臨んだ堀之内陽遥。1回戦と2回戦は実力の差を見せつけ判定5―0で圧勝。3回戦の相手は、日本代表の経験を持つ湯川智仁（群馬）。湯川の前蹴りに対し、堀之内は、後ろ回し蹴りから突きと下段蹴りで攻め、3―0で下した。

続く準々決勝は、世界大会日本代表の座がかかった一戦。昨年の大会で3位となり日本代表として第2回KCC（空手チャンピオンズ・オブ・チャンピオンズ）に出場した渡辺優作（世田谷・杉並）との重量級対決。渡辺の近距離での下突きに対し、堀之内は力強い下段蹴りで応戦。両者一歩も譲らない攻防が続いたが、堀之内の執念が勝り、4―0で退けた。ベスト4に入り、自力で日本代表の切符を手にした。事前の九州遠化合宿では「全日本大会で勝って、世界大会出場の切符を手にしますと話していた。一つの目標は達成した。あとは〝日本一〟の称号だ。

準決勝は、昨年の4回戦で戦った岡田侑己（和歌山）との再戦。昨年は、本戦と延長、再延長でも決まらず、体重判定で敗れた。今回は決勝進出をかけての一戦となった。

リベンジならず

接近戦で多彩な技を繰り出す岡田に対し、堀之内も力強い突きと下段蹴りの連打で対抗し、大接戦となり、旗2本が堀之内に上がった。あと1本上がっていれば堀之内の勝利だったが引き分け。再延長でも旗2本が堀之内に上がった。体重判定となり、堀之内の108・8㌔に対し、岡田は88・8㌔に規定により岡田に軍配が上がった。

堀之内は「悔しいです。昨年のリベンジが果たせなかった。本戦と延長戦で決めきれず、昨年と同じ体重判定。旗をあと1本上げることが出来なかった。また挑戦します」と唇をかんだ。日本代表の切符を獲得したことに「自力でつかめたのは良かったです。世界大会まで1年ありますので、じっくりと準備が出来ます」と世界大会に照準を合わせて稽古に励んでいく。

◆堀之内陽遥
▼1回戦 ○5―0山富颯也（愛知中央支部）
▼2回戦 ○5―0林晃世（世田谷・杉並支部）
▼3回戦 ○3―0湯川智仁（群馬支部）
▼準々決勝 ○4―0渡辺優作（世田谷・杉並支部）
▼準決勝 ●2―0、0―0、2―0、体重判定岡田侑己（和歌山支部）



福岡支部の入賞者（左から敢闘賞村田、男子第4位堀之内、女子第4位渡部、女子準優勝藤原）と新極真会の緑健児代表

新極真の風

第58回全日本空手道選手権大会（10月10、11日、東京体育館）

フルコンタクト空手の日本王者を決める「第58回全日本空手道選手権大会」（新極真会主催）が10～11日、東京都渋谷区の東京体育館で開かれた。体重無差別で争われる国内最高峰の大会に、流派を超えた猛者たちが全国から集結。組手男子62人、女子32人と型男子21人、女子20人が頂点を目指した。同時に今大会は、来年10月に開催される「第14回全世界空手道選手権大会」の日本代表選抜戦として開催。トーナメントで争われ、男子は渡辺和志（25）が初優勝、女子は鈴木未紘（21）が4連覇を達成した。福岡支部からは、女子の藤原桃萌（27）が準優勝、男子の堀之内陽遥（20）がベスト4入りし、日本代表を決めた。女子軽中量級で活躍する渡部はるあ（23）が健闘し4位入賞。型の部は、男子が山崎一平（35）、女子は田中利奈（23）がともに初優勝を飾った。成績上位の組手男女計6人と型男女計8人が世界への切符を手にした。

HP（福岡支部緑道場）

無差別級でも大坪力を発揮

第10回JFKO全日本大会軽中量級王者の大坪裕希は、無差別級でも力を発揮した。1、2回戦は、体格差を感じさせない力強い拳を繰り出し圧勝。3回戦は、昨大会準優勝で、今大会の最終ゼッケンを背負った渡辺和志。本戦は、力強い突きの攻防で両者譲らず引き分け。延長では、重量級の拳に、徐々に押され敗退となった。今大会で優勝した日本代表相手に善戦し、試合終了の合図と共に、大きな拍手が沸き起こった。

◆大坪裕希
▼1回戦 ○5―0難波隼平（大阪北支部）
▼2回戦 ○3―0志村朱々璃（総本部道場）
▼3回戦 ●0―1、0―4渡辺和志（世田谷・杉並支部）

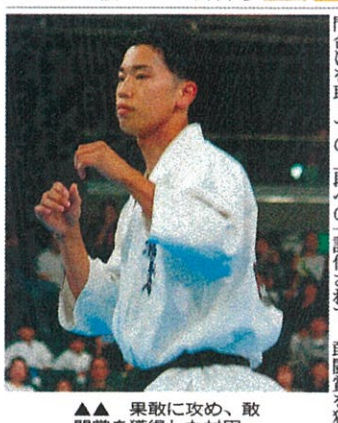


▲▲ 重量級相手に善戦した大坪

村田初参戦も攻めて敢闘賞

▼3回戦 ●0―4遠田竜司（東京江戸川支部）

カラテドリームフェスティバル8連覇という実績を持つ村田哲成が無差別級に初参戦。1回戦は持ち前のスピードで圧勝。2回戦の澤井天心は、軽重量級王者で数々の大会で上位に進出する実力者。序盤から激しい突きと上段、下段への蹴りが繰り出され一進一退。僅差で村田に軍配が上がった。続く3回戦の遠田竜司は、第10回JFKO全日本大会重量級の覇者で、優勝候補の1人。村田は、挑戦者らしく、序盤から果敢に攻めていった。スピードと間合いを取っての上段への蹴りは有効だったが判定負け。今大会3試合の戦いを評価されて、敢闘賞を獲得した。



▲▲ 果敢に攻め、敢闘賞を獲得した村田

◆村田哲成
▼1回戦 ○5―0内野心裕（神奈川東横浜支部）
▼2回戦 ○3―0澤井天心（東京城南川崎支部）

◆全日本空手道組手種大会入賞者◆
【男子・組手部門入賞者】
優勝 渡辺 和志（世田谷・杉並支部）
準優勝 岡田 侑己（和歌山支部）
第3位 高橋 耕介（世田谷・杉並支部）
第4位 堀之内陽遥（福岡支部）
第5位 塚本慶次郎（世田谷・杉並支部）
第6位 遠田 竜司（東京江戸川支部）
第7位 渡辺 優作（世田谷・杉並支部）
第8位 金岡 陽大（川崎東湘南支部）
【男子・型部門入賞者】
優勝 山﨑 一平（熊本中央支部）
準優勝 角野 将太（和歌山支部）
第3位 志村朱々璃（総本部道場）
第3位 竹島 雅之（鹿児島中央支部）
【女子・組手部門入賞者】
優勝 鈴木 未紘（厚木・赤羽支部）
準優勝 藤原 桃萌（福岡支部）
第3位 目代 結菜（東京城南川崎支部）
第4位 渡部はるあ（福岡支部）
【女子・型部門入賞者】
優勝 田中 利奈（岡山東支部）
準優勝 星 芽里（東京豊島支部）
第3位 細谷 希花（埼玉大宮西支部）
第3位 河尻望々花（和歌山支部）

福岡支部全13選手が初戦突破！

福岡支部の男子8選手と女子5選手の全選手が初戦を突破した。福岡から駆けつけた応援団もスタンドから大きな声援を送った。

◆横島玄武
▼1回戦 ○上段掛け蹴り技有り木元赳仁（神奈川東横浜支部）
▼2回戦 ●0―5湯川智仁（群馬支部）

初出場の横島は高校2年生の17歳。1回戦は、鮮やかな上段掛け蹴りを決め、会場を沸かせた。体重別の大会で実績を積み、さらに無差別級にも挑んでいく若手有望株だ。

◆大坪星太
▼1回戦 ○5―0深沢優斗（岩崎空手）
▼2回戦 ○2―1、4―1長嶋航平（千葉北支部）
▼3回戦 ●0―5塚本慶次郎（世田谷・杉並支部）

2回戦は体重差50㌔の相手。軽やかなフットワークと突きの応酬で圧倒した。

◆前平斗真
▼1回戦 ○5―0佐藤悠槙（実戦格闘空手道場雅）
▼2回戦 ●0―4古庄正樹（練馬支部）

第10回JFKO全日本大会中量級覇者の前平。無差別級でも戦える体作りをしていたが、故障したこともあり練習不足が響いた。

◆江口雄智
▼1回戦 ○2―0、5―0山地悠斗（京都南支部）
▼2回戦 ●0―5高橋耕介（世田谷・杉並支部）

福岡支部の中心選手として長きに渡って活躍する江口。2回戦では、今大会3位に入賞した高橋と激戦を繰り広げた。

◆藤田春人
▼1回戦 ○5―0佐藤大成（浦和支部）
▼2回戦 ●0―5金岡陽大（川崎東湘南支部）

1回戦を圧勝した藤田は「福岡支部のみんなも勝ち上がってますね。自分も頑張ります」と試合後のコメント。2回戦での敗退となったが上位進出を目指して今後も稽古を積んでいく。

◆河村奈々
▼1回戦 ○0―1、3―2小鳴夏鈴（東京江戸川支部）
▼2回戦 ●0―3野邑心菜（世田谷・杉並支部）

軽量級の河村が、重量級で活躍する野邑に挑戦。スピードで圧倒し互角にわたり合った。

◆緑絢音
▼1回戦 ○3―0羽生七海（浦和支部）
▼2回戦 ●0―4細谷誉（埼玉大宮西支部）

軽やかなステップワークと多彩な技が魅力。今後は、経験を積んでさらになる飛躍を目指していく。

◆梅澤彩音
▼1回戦 ○0―2、5―0伊藤煌彩（世田谷・杉並支部）
▼2回戦 ●0―3水谷恋（日本空手道久保田道場）

実力者の水谷相手に善戦。激しい両者の攻防は会場を沸かせた。


横島玄武


大坪星太


前平斗真


江口雄智


藤田春人


河村奈々


緑絢音


梅澤彩音

・ジョブチケット番号 （1.05.26.010220023092.20261027.20279）
・文字インバリッド （ 0）
・イメージインバリッド （ 0）